

# 1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2470600418		
法人名	伊勢温泉観光株式会社		
事業所名	グループホームにのみの家		
所在地	三重県津市新家町1488		
自己評価作成日	令和5年10月14日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyoNoCd=2470600418-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyoNoCd=2470600418-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和5年11月1日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は桃園地区の高台にあり、施設からは竹やぶや田園風景の広がる景色が見え、自然豊かな環境の中、四季の移り変わりを感じながら散歩を楽しんでもらっています。散歩コースであるお隣の光明寺さんの紫陽花や桜は利用者もとても楽しみにされています。春は桜の下で各階の職員の手作りの昼食やお菓子を食べてお花見しました。コロナ禍で行けなかったいちご狩りも今年は職員手作りのお弁当を持って、バスを貸し切って全員で出掛けて来ました。行く前からとても楽しみにされ家族も同行し、皆さんとても喜ばれ笑顔いっぱいでした。今は秋祭りに向けて作品を制作したり内容を考えたりとコロナ前の活気が戻っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

この事業所では、経験の長い職員が比較的多く、事業所の理念「和顔愛語」をよく理解して支援に取り組んでいる。仕事は大変だけど楽し。例えば夜勤は7~8回あるが仕事全体にゆとりがあり、のびのびとした職場である。それは日常的な職員間のコミュニケーションがよくなされ、何でも話し合える職場になっているからである。その結果、重度化して多くの介護を要する利用者が増えているにもかかわらず、その対応、支援を楽しみ、ありがとうと言われるとうれしいと感じる職員がいる。そして利用者が安心、ゆったりと過ごせる事業所になっている。

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「和顔愛語」の理念を下に、実践理念の利用者本位を再確認しながら努めている。以前外部評価で月々の小さな目標とされていたが、まだ実践出来ていない。	利用者に対し、できる限り笑顔で対応するよう心がけている。勤務経験5年以上の職員が多く、理念をよく理解し自分なりにかみ砕いて取り組んでいる。「和顔愛語」は古い言葉であるが、職員間で検討した結果これでいいと結論を得ている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で繋がりが少なくなっていたが、今年度から再開している事もある。最寄りの小学校の元きっずや中学校の職場体験にも来て頂いた。また敬老会には参加出来なかったが案内もきており、年々地域との繋がりは増えている。運営推進会議も継続して開催中である。	自治会に加入済で行事が再開された。敬老会に招待されたが、会場が2階で昇降機がなく参加できなかった。本年度の職場体験参加は2名だったが、依頼は増えている。事業所敷地内に自治会の防災倉庫も設置されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や久居東中学校職場体験の受け入れ、桃園小学校の元きっずの慰問など、色々な形で地域と関わり認知症の人の理解や支援の方法を見て頂く機会が増え、貢献できているのではないと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度のペースで開催しており、現況報告を行いながら、意見や要望もお聞きしている。更に必要な事柄については再度管理者会議で話し合い、サービスの向上に活かしている。	この1年、対面開催が多いが、昨年12月にコロナ陽性者が出たので、文書開催にした。参加者は多彩で、事項も利用者の状況、事業所の取組みや事故報告等、多様である。意見交換も多く、行政、地域包括の他、家族や地域関係者も発言している（最近では職場体験の中学生も参加した）。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の参加を促したり、変更届の提出時やその他の問い合わせをした際に、事業所の実情やケアサービスに関する事も話しており、協力関係を築きながらお互い勉強している関係が出来ている。	介護更新手続きは総合支所へ行くが、運営上の相談は本庁へ行っている。生活保護利用者もいるが、家賃は生活保護限度額内まで免除、負担金の未払いが生じうるが保護課と家族を交え話し合っている。何かあれば市行政と話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期研修などで職員は理解しており、日々考え、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。職員不足もあり毎日の玄関の施錠の開錠は難しいが、時々試したりしている。	身体拘束廃止委員会は年4回実施、協議内容は各フロア会議で研修している。意味は職員がよく理解しているが、拘束せざるを得ない利用者も2名あり、同意書で家族の理解を得ている。昼はほとんど門を開錠しているが、夜間とイベント時は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修で虐待防止について学んでいる。言葉や無言での虐待もあるので職員が完璧に徹底出来ているとは思わないが、その都度気になる事があれば指導も行き、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用していた方が以前みえたが、現在は利用されていない。研修で成年後見人制度を学ぶ機会もあるので活用し、いつでも支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要事項説明書を読み上げ、その都度疑問があれば確認している。また改定の際は同意書も頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	中々家族から直接の意見は無いが、以前多くあったのが看取りについてである。施設を替えたくないという方が多く、何件か看取りを行った。この件については、運営推進会議で外部者に伝えている。	家族が直接、意見や要望を伝えてくることはあまりない。入居時に看取りの困難性、特養の説明はしている。利用者の認知症状が変化、進行していることを職員は感じており、その状況を家族に伝えているが、家族としては施設の変更を認めたくない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議やその都度出た意見を精査し伝えているが、中々反映されてない現状である。	職員会議を毎月1回、管理者・ケアマネ会議、朝夕の申し送り、ユニット毎の職員会議（管理者が全て出席）等で意見交換しあっている。事業所内のイベント等はユーチューブを使ってアイデアを出し合い、取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度もなく個人面談等での報告を行っているが、昇給も中々無い状態。また人員不足で時間外労働も増えているが、求人もしているが新しく日本人が入って来ない現状。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は全てを把握しておらず、中々難しい。伸びる職員は伸びているが、現状満足している職員も多く、全体的な底上げは難しい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等で同業者との交流をしており、その場での情報などを職員会議等で共有しサービスの向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	先ず実地調査で聞き取りし、その後生活歴などをもとに本人や家族から要望をお聞きし、本人が安心して生活出来るように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込みや契約時に細かく聞き取りし、サービス導入時には暫定ケアプランを確認して頂き、その時点でも要望等を記入してもらっている。入居2週間後のケアプランに反映し関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上欄にもある様に、細かく聞き取りする事によって初期対応での支援や、他のサービスを含めた対応等、その時に必要な支援の提供になってきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は本人にして頂くようにしており、洗濯物をたたむ、おしぼりを巻いて頂く、洗濯物を取り込むなど、様々な事をして頂くなど支えあう関係を築いている。チームケアを指導しているが、職員各々で微妙な差があり、完全統一は出来ていない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お願いする事やお願いされる事もあり、気軽に相談など頂ける関係づくりに努めている。全く関わる事が無いという風にならないよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍に比べれば外出も増えているが、様々な感染症にも気を付けなければいけない状況で、家族も遠慮しているところもあると思われる。ご要望があればお答えしていますが、外泊はまだ検討中である。	家族の来訪、面会は玄関ホールで行うが、以前よりスムーズになっている。家族同伴外出は、今のところ通院時に限っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人それぞれ出来る事や出来ない事など把握し、その時に見合った座席等検討するなど、利用者同士が関わり支え合える環境支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新年の挨拶や連絡があり、関係性は出来ていたと思う。また良い知らせではないが、退去後に逝去した事を来訪しご報告下さる家族もみえた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自身の意向や希望を訴えられる方が減ってはいるが、日々の会話から汲み取れる事や今迄の施設での生活などを鑑みて、出来るだけ本人本位であるように検討し努めている。	重度化に伴うのか、口調が不明瞭で自分なりのニーズが出せない利用者が増えている。会話が困難な人が約半分いる。歩けないのに盛んに動いて時には暴れる人がいたが、対応を検討してリクライニング車いすに替えたら落ち着いた人がおり、車いすに問題があったと分かった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、生活歴を記入頂いた紙面を預かる。その中で気になる事などあれば質疑応答する。また入居後も家族と会話を持ち、その都度サービスに反映出来るか検討し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービス利用時に日課計画表を作成。ある程度一日の流れはあるが、心身状態など加味しそれぞれに合った一日の過ごし方の提供に努めている。変化があればその都度臨機応変な対応もしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の更新の際、職員会議でモニタリングし検討している。少人数ではなくフロア全職員で意見の交換し反映している。家族からもご意見を頂き反映している。	職員会議時にカンファレンスも実施、毎月のモニタリングを行い、3か月毎に又は心身状態変化時にケアプランを検討している。モニタリングとケアプランが一体になった用紙を工夫し使用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のカルテや業務日誌へ記入している。また特変時に記入する用紙もあり、長期間入居している方もそれを見れば直ぐ分かるようになっている。直ぐに実践すべき事案か検討し、早期実践の事案は出来る限り全ての職員へ情報共有と相談し、その結果業務日誌とは別の連絡事項表へ記載するなど工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスを基本として対応は行っているが、出来る限り満足のいくサービス提供が出来るよう努めている。看取りも段々増えているが、看取り指針までは作成出来ていない。加算は取っていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域の事をお聞きしており、ある程度把握している。コロナ後で自治会行事の参加まではまだしていないが、自治会にも協力して頂き地域資源を活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医はあるが、契約時に今迄の掛かりつけ医にするか否か確認する。提携医以外は基本的に家族に受診をお願いするが、他の往診医もいるので状況や状態を鑑み依頼する事もある。	協力医は毎月訪問診療するので、約半数の利用者が受診している。他の内科医の往診や専門医に通院する利用者もいる。通院は家族が同伴するが、家族同伴が困難な利用者は職員が同伴している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の常駐も無く、訪問看護も入って頂いていないが、ある程度の判断は職員がしている。判断しかねる時は掛かりつけ医に相談して判断を仰ぎ支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時医療機関とは定期的にケアマネが連絡を取り、情報交換や相談している。関係づくりも含めケアマネに一任し、情報共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階では行っていない。利用者や家族との関係性も出来ていない為、ある程度関係性が出来てきた時や、変化があった際に話し合いをしている。以前契約時にも話し合い出来るように検討をしていたが、まだ実行は出来ていない。利用者の状況にもよる。	看取りの指針は特に決めていないので、看取りをするかどうか、家族の意向を踏まえながら、法人代表者と相談したうえで対応している。訪問看護事業所との契約もなく、職員に無理のない範囲で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等で伝えるが、実際に訓練し実践力を上げる取組までは行っていない。今後は訓練や内部研修で行っていかうと考えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、確認して頂いている。いざ実践となると難しい事もあるが、年に2度の避難訓練などで訓練を行っている。各階2名程度徒歩30分以内に駆け付けられる体制を整えている。地域も高齢化が進み協力を得る事が難しいと、以前に運営推進会議で返答があった。昨年度施設前に自治会の防災倉庫を設置して頂いたが、物品などはまだ決定していないとの事。	5月、11月に防災訓練をしており、消防署も参加している。訓練で通報、消火、避難(3階建で外階段も使用)、AED等ひとりひとりのことをしている。停電になると真っ暗になるが、夜間想定訓練は十分にはできていない。近く小学校までの避難経路は確認してある。	3ユニットを運営しており、多くの利用者の安全安心を支える努力がされている。しかし災害はいつ生じるか分からない、夜間の安全確保のためにも夜間想定訓練をしっかり行うことを期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修などで定期的に理解を深めているが、人員不足で異動なども行っていない状況で、馴れ合いになっていないかと懸念もしている。再度一人ひとりの尊重と、プライバシーの確保を今以上に徹底できるよう指導し支援に努めている。	新規スタッフの採用時に「和顔愛語」の意味と支援のあり方を説明している。職員は、声掛けは横に行き呼びかける、苗字で呼びかける(家族の要望あれば名前をいう)、個別ファイルは置き場を決め、職員のみが触れる用にしている等の注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一日の流れがあり、全てを自己決定して頂く事はしていないが、会話から思いを汲み取ったり、自身の誕生日会やイベント時に食べたい物など選んで頂けるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが考え方や思う事に違いもあるが、意思決定出来ない人も多い。意思決定出来る方の要望だけに偏る事なく、思いを汲み取りながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出も少しずつ増え、髪の毛を染めて欲しいと言われる方もみえる。その際に他利用者も要望があったので、それ以来定期的に髪の毛を染めているなど、意思決定出来る方は少ないが要望に応え支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	衛生上の問題もあり、準備や片付けなどはして頂いていないが、イベント時に食事を共にする事はある。また近日まで家で料理をしていた方もみえるので、今度お願いしてみる予定である。個々の状態に合わせ食事形態を変えたり、今年度より管理栄養士にも指導をして頂いている。	食材配送会社のメニューにより、職員が交代で調理している。法人の管理栄養士が内容のチェックをしている。イベントの時は独自のメニューを皆で検討・調理したり、庭にテーブルを出したり、誕生日パーティーは本人を盛り立てる等の工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスなどは、外注でお願いしている。また管理栄養士にも入って頂き、細かく指導をして頂いている。ある程度問題の無い方は現状維持で、状態の変化がみられる方を管理栄養士に伝え支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診している方も多く、歯科医から指導もして頂いている。基本的には自身ですべてをケアに入っている。また状態に応じ、口腔ティッシュやスポンジを使うなど工夫している。またしっかりと口腔ケアをし歯科往診の回数も減らす事が出来た。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えをする方も減ったが、訴えの無い方は2~3時間おきに定時誘導し、トイレでの排泄を促している。また便秘の方も多く、医者や管理栄養士と相談し薬の処方や長く座って頂く、水分摂取を多くする事や、身体が動かせる人は体操等で身体を動かすなどの工夫をしている。	利用者本人の状態により排泄チェック表を活用したり、適宜トイレ誘導を促したりしている。便秘対策では医師の助言を得て、食事管理、運動、服薬等を配慮して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になる原因の究明まではしていないが、及ぼす影響は理解しており、長く排便の無い方を把握し、医者や管理栄養士と相談しながら取り組んでいる。またレクリエーションなどで、個々の能力に応じた運動も促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望やタイミングに合わせた入浴は行っていないが、個々の力に応じて出来る限りの事はして頂いている。シャワーチェアを使うなどの工夫はしている。	週3回は入浴できるよう順番を組み、支援している。入浴時間は午後が多い。浴槽は家庭用よりやや大きめの個人用浴槽でゆったりできるが、本人の身体状況によって浴槽につかれない時はシャワー浴にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転し身体に負担が掛からないように声かけしたり、その日の状況に応じて休んで頂いたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や副作用、用法や用量については理解しており、特に便秘薬は用量の範囲内で医師に相談し、一日の分量の調整も行っている。また症状や変化があれば、その都度医師と相談し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	介護度も様々で同じようにはいかないが、個々の能力に応じ、お手伝いやレクリエーションなど行っている。また塗り絵などをして頂いている時にお菓子をお出ししたり、家にいるような感覚で楽しめる空間作りにも努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	職員不足でもあり、各々の希望の支援までは出来ていないが、歩行が安定している方を散歩に行ったりしている。家族にもお願ひ協力しながら支援している。	コロナ禍の影響のみでなく、利用者の重度化も進み外出困難になっている。それでも花見、イチゴ狩りに出かけ、夏は庭で夏祭りをしてケーキを楽しんだ。また通院の帰りに、うなぎ屋とかずし屋によったりした。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設でしている。買い物などで出た際は、支払いなどお願いする事はある。ご希望などあれば、家族に確認し使用する事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族を認識出来ない方もみえる。自ら電話をしたいとの訴えも少ないが、家族からの電話をお繋ぎしたり、リモート面会でお話するなどの支援をしている。文字も書けなくなってきたが、新年の挨拶を自身で書いて頂く支援を毎年している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員側の音や温度に合わせ、利用者が不快にならないよう指導しているが、個々の感覚の違いもあり、しっかりと徹底出来ていない。その都度職員に確認し指導している。季節感など味わって頂けるよう、毎月職員と一緒に壁紙の作成するなど、共用空間作りをしている。	食後はほとんどの利用者が食堂兼ホールにて思い思いに過ごしている。ユニット毎に細工物を一緒に作ったり、作品を壁に飾ったり、テレビを見たりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者とお話する席にしたり、お世話をして下さる利用者や隣にするなど工夫している。介護度や身体と心身の状態が違う様々な利用者がフロアにみえるので、その時々で出来る限り思い思いに過ごせるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に制限はしておらず、利用者や家族と相談しながら居心地良い空間づくりをしている。また居室だけに拘らず臨機応変に対応し、家族が見守る中看取りも行った。	部屋毎にベッド、エアコン、洗面台、トイレ、クローゼットが設置され、利用者それぞれが好みと必要に応じた日用品を持ち込んで過ごしやすいようにしている。かつては仏壇があった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、至る所に手摺りも付いている。個々の居室には、顔写真入りの居室表を貼り分かり易くしている。車椅子やシルバーカー、歩行器も個々に合わせて替えるなどしている。		